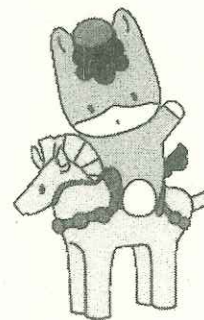


東国文化自由研究レポート



研究テーマ

私の家の近くの古墳は実は古い古墳だった
もしかしたら、日本書紀に出てくる人が葬られて
いたかも。

提出日 2021年8月27日(金)



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1年 4組 1番

氏名 今泉七海

テーマ：私の家の近くの古墳は、実はすごい古墳だった。

もしかしたら、日本書紀に出てくる人が葬られていたかも。

1 はじめに

私は前橋市に住んでいます。家のそばに古墳とともに作られた公園があって、そこで遊んだりしていました。昔住んでいた団地は、目の前に古墳があつたりして、私の生活の中で、古墳は日常普通に目にするものでした。

今回、この研究をするにあたり、改めて近所の古墳について調べたところ、それは「前橋天神山古墳」や「八幡山古墳」であり、実はすごい古墳であつたと知りました。

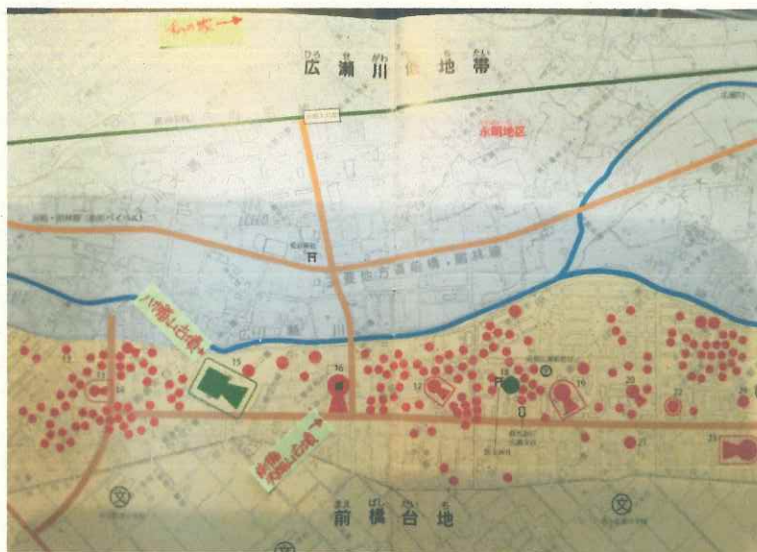
この2つの古墳は、未だ葬られている人は分かっていないということで、地元の資料館や県立歴史博物館を見学して調べてみると、「もしかしたら日本書紀に書かれている人が葬られているかもしれない」と考えるようにもなりました。

この研究では、前橋天神山古墳と八幡山古墳について、出土した埋葬品やその古墳の形、作成時期などを調べた上で、葬られている方を想像していきます。

2 前橋天神山古墳と八幡山古墳の位置

私はJR前橋大島駅のすぐ近くに住んでいます。この2つの古墳は、JR前橋大島駅から南西の方に700メートルくらいの坂のうえにあります。

資料でみると、私の家は広瀬川低地帯という場所にあり、今は広瀬川、昔は利根川が流れて



いたとのことで、古墳はこの広瀬川低地帯から3メートルほど高くなつた前橋台地と呼ばれる坂の上にあります。このあたりには、今も多く古墳があり、「朝倉・広瀬古墳群」と呼ばれています。

古墳が作られたのは、およそ4世紀から6世紀であり、その頃は、私が住んでいる広瀬川低地帯に利根川が流れ、その川岸に無数の古墳があり、その中心に、前橋天神山古墳と八幡山古墳が

私の家と朝倉・広瀬古墳群及び
前橋天神山古墳・八幡山古墳

あつたことが分かります。

この2つの古墳以外にも、天川二子山古墳や飯玉神社古墳、亀塚山古墳、山王金冠塚古墳など、現在も残されている古墳がたくさんある場所です。

朝倉・広瀬古墳群分布図でみると、昔は無数の古墳が存在していたことが分かり、昭和10年に県下一斉に行われた古墳調査によると、この地区には154基の古墳があつたと記録されており、その中には、巨大な前橋天神山古墳や八幡山古墳等も含まれていました。その頃にはすでになくなつていた古墳もあつたとのことで、かなり多数の古墳がこの辺りに造られていたとのことです。

これほどの数を誇る古墳群が「朝倉・広瀬古墳群」にはありましたが、昭和20年後半ころから、このあたりに住宅団地が作られ、現在ではほとんど整地されて壊されてしまったそうです。

3 前橋天神山古墳について

前橋天神山古墳は、朝倉・広瀬古墳群のほぼ中央にある古墳で、かつては全長129Mの巨大な前方後円墳で、前方部が高さ7M、後方部が高さ9Mもあり、だいたいマンションの3階くらいの高さがあったとのこと。

前橋天神山古墳は、4世紀の古墳時代前期に、東日本で最も早く造られた前方後円墳の一つです。当時は後円部は3段に造られ、葺石により覆われており、墳頂部には、赤く塗られてそこに穴が開けられた壺型土器が四角く配列されており、巨大で華やかな古墳だったとのこと。



古墳台帳に記載された
昭和10年当時の前橋天神山古墳

昭和10年に行われた古墳調査の台帳をみると、前橋天神山古墳は第71号古墳として登録され、所有者は矢端次郎さん、前方後円墳で発掘の有無は不詳とされ、当時のスケッチを確認すると、墳頂部に松の木のような樹木が茂るものの、墳丘部には樹木は茂らず、4世紀に作成された頃の古墳の面影が残っていることが伺えます。

4 前橋天神山古墳の発掘

前橋天神山古墳も高度成長期に入り、整地のための発掘が行われていきました。

前橋天神山古墳に掲示された資料によると、その後、昭和43年7月から8月に墳丘部の現状実測や後円部の葺石調査が行われ、11月に周溝調査、昭和44年3月から4月に後円部埋葬主体部の粘土槨の調査が行われ、7月から8月に前方部の周溝調査が行われたとのこと。

前橋天神山古墳では、発掘しながら整地されていくなかで、粘土槨（ねんどかく）という墓に埋めた棺を粘土で丁寧に覆った施設が出土し、そこから銅鏡や鉄製武器などが発見されました。

この粘土槨は、長大な木棺に入れられるほど大規模なものだったとそうです。

昭和44年4月に前橋天神山古墳を発掘している際に記録された映像が残っており、群馬大学の尾崎喜左雄博士が古墳発掘をしながら説明している映像が、前橋歴史博物館で「記録映画天神山古墳発掘」として放映されています。

ここでは、昭和44年の発掘調査時の映像がながれ、発掘当時の粘土槨の様子や出土品の発掘等について説明されていました。

その後、前橋天神山古墳は、この粘土槨が出土した場所だけ残され、古墳の説明が書かれた看板が建てられており、古墳があった場所には平に整地され、現在は広瀬保育所やコンビニエンスストアが建てられています。



現在の前橋天神山古墳と案内図

5 前橋天神山古墳から発掘された銅鏡等について

前橋天神山古墳からは、副葬品として銅鏡5枚、紡錘車形石製品、銅鏃、鉄製武器、鉄製農具などが発掘されました。

この出土した副葬品のうち、銅鏡5枚については、「三角縁四神四獣鏡」や「三角縁五神四獣鏡」という価値の高い銅鏡であり、そのほかに変形獣形鏡や三段式神仙鏡が発掘されました。



左 三角縁四神四獣鏡

右三角縁五神四獣鏡

これらの出土した銅鏡については、重要文化財として東京国立博物館に大切に収められています。

6 出土した三角縁五神四獣鏡について

出土した三角縁五神四獣鏡は、現在、群馬県立歴史博物館にて「古墳大国群馬へのあゆみ」の企画展が行われ、出土した現物が展示されており、4世紀後半に埋葬された銅鏡の本物を見ることができました。



展示中の三角縁五神四獣鏡（本物・群馬県歴史博物館）

この銅鏡は、本当に綺麗な状態で保存されており、約1700年間も埋葬されていたとは考えられないほどでした。

また、上川淵地区郷土民族資料館に、この出土した三角縁五神四獣鏡で型をとり、現物から複製した模型が展示されており、この模型を近くで見学させていただきました。



三角縁五神四獣鏡（複製）



この三角縁五神四獣鏡をよく見ると、3人の神様と2人の神様がそれぞれ2人ずつの獣を挟んでいる絵が描かれている。神様はみな手を腹の部分で重ね、獣には角が何本も生えていて、大口を開けて目を見開き、体に蛇のようなものを巻きつけており、いかにも悪魔のような姿で、ディズニー映画の「ライオンキング」に登場するハイエナのような姿に見えます。

7 三角縁五神四獣鏡が出土している古墳について

この三角縁五神四獣鏡と同じ銅鏡が出土している古墳として、奈良県桜井市にある「桜井茶臼山古墳」や奈良県天理市の「黒塚古墳」などがあります。



左 黒塚古墳

右 桜井茶臼山古墳

この銅鏡については、卑弥呼が魏から239年に贈られた鏡だとする説もあるものの、多くの資料からみて、これら3個の古墳から出土している三角縁五神四獣鏡は、同じ鑄型を用いて鑄造されたものといわれています。

なお、この桜井茶臼山古墳については、大きさ207M、高さ23Mの前方後円墳で、前橋天神山古墳よりも大きい古墳で、三角縁五神四獣鏡を含む銅鏡が、復元作業により推計81枚以上も埋葬されていたといわれており、埋葬されているのは、第10代崇神天皇の皇后である御間城姫ともいわれていて、かなりの実力者が埋葬されていたことがわかります。

次に、黒塚古墳については、大きさ130M、高さ11Mの前方後円墳で、桜井茶臼山古墳よりも規模は小さいものの、埋葬品として三角縁五神四獣鏡を含む三角縁神獣鏡が33面も出土し、発掘当時に判明していた三角縁神獣鏡のおよそ1割に近い量が一度に発掘されました。

埋葬者については現時点でも判明していないが、墳丘の規模や作成時期、三角縁神獣鏡で囲まれて埋葬されたことなどから、ヤマト政権でかなりの実力者が埋葬されていたと考えられています。

8 前橋天神山古墳と黒塚古墳について

前橋天神山古墳と黒塚古墳については、作成時期がどちらも4世紀前半ころといわれており、前方後円墳で形状企画ともに同様のものとなっています。

前橋天神山古墳からも、黒塚古墳と同じ鑄型を用いて作成したと考えられている三角縁五神



黒塚古墳は全長130m、古墳の、規模と形状企画ともに前橋天神山古墳にほぼ同様といえる。

黒塚古墳の形状（前橋天神山古墳と同規模）

四獣鏡を含む多くの銅鏡が出土しており、前橋天神山古墳に埋葬された人は、ヤマト政権でかなりの実力を持った人と考えられます。

また、ヤマト王権で王の墳墓として造られた崇神陵古墳や景行陵古墳によく似た墳丘となっており、やはり前橋天神山古墳にあっても、ヤマト政権の実力者が埋葬されていると考えられています。

9 日本書紀から推測できる群馬に所在する古墳の埋葬者

日本書紀のなかで、東国派遣について述べられている部分あり、崇神天皇が後継者を選ぶ際、活目尊（いくめのみこと）と豊城入彦命（とよきいりひこのみこと）のどちらにするか悩み、それぞれが見た夢を報告させて決めることとし、「東に向かって槍や刀を振り回す夢」を見た豊城入彦命に東国派遣をさせ、「御諸山にのぼり、四方に縄を張って雀を追い払う夢を見る」と報告した活目尊を後継者にしたという話があり、そのことから関東地方に豊城入彦命が埋葬されているといわれています。



また、豊城入彦命の孫にあたる彦狭島王（ひこさしまのみこ）についても日本書紀に記載があり、「彦狭島王に東山道の15国の都督として派遣したが、春日地方で病となって死亡してしまった。このとき、東国の百姓が彦狭島王に対して至らなかったことを悲しんで詫び、密かに彦狭島王の遺体を盗んで上野国に葬った」と記載されています。

これらの記載から、群馬県には豊城入彦命や彦狭島王が埋葬されている可能性があります。

豊城入彦命と活目尊の夢から、豊城入彦命が東国に派遣されることが決まった。

10 現在までの群馬県の古墳の調査

県立歴史博物館に展示された資料等から、群馬県では明治時代から、総社二子山古墳や天川二子山古墳が豊城入彦命の埋葬地ではないかと宮内省に申請を行ってきましたが、その古墳の作生時期等から、現在も未だ不明となっている状況です。

また、彦狭島王の埋葬地についても、元島名將軍塚古墳や三島塚古墳、笹森稻荷古墳、天王塚古墳等の名前が上がっていますが、その作成時期や規模等からも、やはり断定されていない状況にあります。

11 八幡山古墳及び前橋天神山古墳の埋葬者の推測

古墳の規模や作成時期、出土した埋葬品等からみて、4世紀初頭に造られた前方後方墳の八幡山古墳は、前方後方墳の中で全国4番目の大きさを誇り、前橋天神山古墳についても、黒塚古墳と同規格で作成時期も4世紀前半とされており、ヤマト王権で王の墳墓として作成された崇神陵古墳や景行陵古墳によく似た墳丘であり、かなりの実力者が埋葬されていると考えられます。

あくまで、地元で語り継がれた話ではありますが、上川淵地区郷土民族資料館の研究員の方から伺う話では、仮に、最大級の前方後方墳の八幡山古墳が豊城入彦命の埋葬地であったと仮定するなら、日本書紀にある東国の百姓が、祖父が眠る古墳のすぐ横に彦狭島王の遺体を盗んで大切に葬ったと考えられ、精一杯の気持ちを表すために、黒塚古墳の作成に携わった方に指導を受けて同企画の古墳を作成し、三角縁五神四獣鏡や三角縁四神四獣鏡などの埋葬品とともに手厚く葬ったと考えてもよいと考えられているとのことでした。

今後、八幡山古墳の発掘調査が行われ、もし、八幡山古墳が豊城入彦命の埋葬地と断定された場合には、前橋天神山古墳は彦狭島王の埋葬地であったと十分に考えられることから、今後の調査に十分に期待ができると思っています。

12 今回の古墳研究を通じて感じたこと

私は、地元にある前橋天神山古墳のようにすごい人が葬られている可能性があることを今回の研究を通して初めて知りました。また、このレポートにも書いてありますが、八幡山古墳は前方後円墳としては全国4位の大きさということも知りました。

残念なことに、高度経済成長期に前橋天神山古墳は整地されてしまい、粘土槨や埋葬品が出土したことで、危うくその部分だけは残され、現在でもその一部を見ることができます。

それでも、自分の身の回りにもすごい歴史を持った古墳がたくさんあることやその古墳の中に三角縁四神四獣鏡という高い価値のものが、綺麗に埋葬されたまま残っていたという奇跡のようなことがあると知ることが出来て良かったです。

今回の研究を通して、慣れ親しんだ地元の古墳のことを深く知ることができました。

これからも、もっと古墳について調べていきたいと感じました。また、もしかしたら日本書紀に出ている人が埋葬されているのかも考えると、本当に面白いなと感じることが出来ましたし、歴史を身近に感じることができました。これからの歴史の勉強も頑張っていきたいなと思います。